

## 平成29年度 第11回政策推進会議報告

日 時 11月6日 9時32分～10時55分

場 所 4-1会議室

出席者 23人

### 1 あまがさき「未来へつなぐ」プロジェクト中間総括(素案)に対する市民意見公募 手続の結果について

企画財政局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) 財政に関する内容ということで意見は少なかったが、ごもっともな意見が多かったと思う。特に、財政を健全化してどんなまちを目指すのかというところは総合計画と財政計画が双子の計画となっているが、今回はそのうちの1つだけが出ているので、まちのビジョンがなかなか伝わらなかったのではないかとということがコメントから伺える。次に概要版や市民向け冊子を作る際は、目指す姿とそれを裏打ちする財政計画がセットだということがわかるような作りをしていければいいかなと思った。

(市長) 現在、借金返しが折り返し地点に来たくらいかと思う。しかし、ファシリティマネジメントの計画等でも皆さん感じていただいていると思うが、表面上返さないといけない借金だけではなく、本当はやらないといけなかったのに先送りにしていた施設の保全等の宿題がまだ少し残っている。そこも併せて取り組んでいかないといけないという面ではまだまだ厳しい状況が続くが、出口が無い取組みではなく、少しずつ光も差しながらだと思うので、引き続き頑張っていこう。

・自治のまちづくり条例の基本理念の中で、情報共有・参画・協働・対話といったことが非常に重要視されており、私たちもできるだけわかりやすい情報発信に努めていかなければならない。絶えず地域にこうした情報を提供できるような仕組みづくりを意識していきたい。

### 2 自治のまちづくりに向けた地域振興体制の再構築(取組方針)(素案)に係る市民 意見公募手続の実施について

ひと咲きまち咲き担当局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) 公民館はもちろん、やはり学校との連携強化が重要。地域学校協働本部についても素案の中に少し盛り込んでいるが、例えばいじめの防止や子どもの貧困など、地域ぐるみでやっていかないといけない課題がある。今も学校・地域・団体は連携しているが、そこをより強くし、学びや人脈がしっかりと共有され、活動が更に充実していくという良い循環を作っていきたい。教育委員会を含めた全庁まるごとの取組みとなる。全体像が共有されないまま各論の議論が始まると、誤解が生じるなどいろいろ支障が出るだろうが、一定のビジョンとしては整理されてきたと思う。次の100年を支える大きなまちづくりの根幹になっていく部分であり、関係の無い人がいない取組みであるとともに、職員の人材育成という面でも非常に重要なので、多くの皆さんと共有して進めていきたい。

### 3 尼崎市いじめ防止基本方針の改正について

こども青少年本部事務局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) 尼崎市のこの方針の特徴としては、あえていじめゼロとは言わずに、「いじめは頻繁に生じているものであり、だから無いと言わず丁寧に寄り添っていこう」ということを方針にしている。その結果、軽微な気になる案件についても情報としては挙がってきており、学校側が隠してしまうようなことはなく大丈夫そうかなあという状況にある。本当に重篤な重大事件も発生してない。少し欠席日数が多くなってきているというケースはあるので、この方針に則って対応が進められているという状況である。色々と事件が起きるたびに国のほうでも対策が検討されているが、現場で魂を入れないと意味がないことだと思うので、今後も国の改正は踏まえつつ、本市なりの視点で取り組んでいきたい。

### 4 中学校給食基本計画(素案)に対する市民意見公募手続の実施について

教育次長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・ 少子化によって喫食数はどう変わるか。減ったときに効率的な運用が図れるのか。  
具体的にはまだ考えていないが、1万1千食を調理可能なスペックの建物となる。生徒数は37年をピークに減っていくので検討していく。
- ・ 設備を含めた施設の耐用年数はどれくらいか。  
15年である。
- (市長) 自校方式よりはセンター方式のほうが生徒数の減に対応しやすい。民間事業者にプランを出してもらうときには、一部の転用が可能かは検討していただきたいと思っている。  
他の用途に転用すると補助金が貰えないなどの問題が出てくる。
- (市長) 工夫の余地はあると思う。例えば小学校に配る副食を作れないかなど、色々と議論していきたい。
- (岩田副市長) 文教委員会でどこかの給食センターへ視察に行っていないか。
  - ・ 千葉県八千代市へ視察に行っている。
- (市長) 概要2ページに実施方式に関する意見がまとめてあって、ここがメリット・デメリットに相当している。自校方式を強く望む意見としては、温かいものが食べられる、作っている人の顔が見れるなどがある。一方でセンター方式では、全校一斉にスタート可能であることや、工事などによる教育への影響が少ないことが挙げられており、どちらかという自校方式で一斉にできるのが理想的であるが、総合的に考えるとセンター方式でも構わないという意見に思う。これを「給食センター方式での実施を望む方からは」とまで記載していいものだろうか。  
校長や保護者からは、学校環境への影響としてグラウンドが狭くなるのはやめてほしいのでセンター方式のほうがよいという強い意見も頂いている。
- (市長) 自校方式を望む方は、私たちの意見も受け止めたうえで考えてくれたという感じがしてとても良いと思った。次に「給食センター方式での実施を望む方からは」と来ると、本当に望んでいるのか、ここまで言っているのかと少し気になった。
  - ・ 自校方式とセンター方式の費用の比較があるが、もっと運営経費に差が出るのではないか。

- (市長) 配送費やそれに係る人件費が必要となる。ただし、センター方式のほうが合理性が出てくるので、将来的にはもう少し差が開くと思う。
- ・先ほど耐用年数は15年という話があったが、設備の更新にはいくらくらいかかるのか。センター方式の場合、およそ8億円の見込みである。
- (森山副市長) 配管類や空調などの整備に通常の建物よりも費用がかかるので、初期投資は割高になっている。
- (市長) 衛生面に関しては、自校方式よりセンター方式のほうが上のレベルとなる。
- (市長) 仮にセンター方式に着地するとして、次はどこに建てるかというのも大きな問題である。今は候補を並立で3つ挙げているが、それぞれに課題がある。後から隠れた問題が出てこないようしっかり出し切ったうえで、スケジュール通り進められるよう頑張っていきたい。
- ・先ほどの運営経費の話に戻るが、本編には注釈がきちんと書かれている。運営経費の中には要保護と準要保護の方に対する就学援助費が含まれている。就学援助費は1.7億ほどだったと記憶しているので、センター方式の場合の実質的な管理経費は4億強となるのでは。
- (市長) それは内数で書いたほうがいいのかもわからない。理解を示してくださる方ほど「給食の質を上げるためなら給食費を上げて構わない」と言ってくれるが、値上げ出来ない最大の原因が、要保護・準要保護に対する市の持ち出しが増えてしまうことにある。口頭説明する際には補っていく。

## **5 平成29年度全国学力・学習状況調査結果の報告について**

教育次長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・D中学がアクティブラーニング指定校となっているが、一定の区切りで変更するのか。それとも全校に拡充していくのか。  
各中学校からの申請に基づき、教育委員会で総合的に判断する。
  - ・成果のある学校を拡散していくのが一番いいと思う。  
今回のような報告で良い取組を公表することで、他の学校にも広めていきたいと思っている。
- (市長) 市全体で言えばこのところ横ばいで全国に食らいついていると思うが、今までと比べて相対的に下がってしまった学校もあるのか。あるならそこは見ておいたほうがいいと思う。下がる原因がわかれば対策が打てるかもしれない。
- ・兵庫県の中では尼崎市はどんな感じか。  
兵庫県自体は全国並み。市町村によって公表しているところとしていないところがあるので、県の中での順位づけはわからない。県とはほぼ同じくらいのレベルにある。
- (市長) 県教委からの尼崎への見る目はだいぶ変わってきたと思う。ただ、県教委は高校への進学状況をメインで見ている。例えば西宮と尼崎を比べると、西宮は圧倒的多数が普通科に行くのに対して、尼崎は通信制や工業などの普通科以外に行く生徒も多く、如実に差が出ている。しかし、この傾向が悪いのかと言われると別に悪くはないと思うので、こちらは丁寧に独自の分析をしていきたい。
- ・どのように広報するのか。市報やホームページ以外でももっと自慢すればいいのにと。思う。  
今後検討したい。市内の人たちへの説明を丁寧にしていきたいと思っている。
- (市長) 尼崎はまだ「活用」に全国と差がある。これがもし全国に追い付いたとしても、正答

率の高い子たちが塾の力に支えられているとしたら、学校の授業力の向上にはならない。私たちができることは、学校の授業力を上げてその力でどこまで押し上げるか。塾に通う子どもがどんどん頑張れるということなら、それはバウチャー制度の話などに繋がるかもしれない。そういう政策の基礎になるところを、学びと育ち研究所のほうでしっかり分析してもらいたい。

(森山副市長) 成績分布のグラフを見ると、低いほうから中間までが全国平均より上がっており、学校の授業力が向上していることがわかる。上位層は全国平均から落ちているので、私学志向や創意工夫する問題への苦手意識などが読み取れる。全体の底上げは出来ている。

(市長) 自分の子どもが平均的だと思っている親にはもっと尼崎の教育を信頼してもらいたいと思う。

## 6 その他

都市整備局長から、「気仙沼にチューリップを咲かそう」に係る「寄付」について説明。

都市整備局長から、「尼崎ナゾ解きゲーム 龍神の怒りをしずめる!？」の実施について説明。

水道局から、「MIZUのひろば」について説明。

ひと咲きまち咲き担当局長から、市政課題研修「健康なまちづくりによる介護予防」の実施について説明。

総務局長から、職員大運動会について説明。

以 上